Jリーグのホームグロウン制度導入に際するJクラブユースと 高校および大学の育成環境の違う選手の人数と活躍の実態[†]

能 智 大 介^{*} 児 玉 ゆう子^{**} 平 田 竹 男^{*}

Number of Players with Different Training Environments in J-Club Youth and High Schools and Universities in Relation to the J-league Home-Grown System[†]

Daisuke NOCHI^{*}, Yuko KODAMA^{**} and Takeo HIRATA^{*}

Abstract

We investigated the ideal way to conduct the Home-Grown-Player (HGP) system. In this study we clarified the number of people enrolled in HGP, the time of participation, the training environment, and the area where participants grew up, to provide basic data for the J-League from the viewpoint of training young players in Japan. We investigated definition 1 (J-HGP1), which is a player who has been in the club for 3 years from age 15 to 21. In addition, J-League also separately defined players who have graduated from high school or university (J-HGP2). We calculated the contrast value of the HGP Ratio Value (HRV) as an indicator of the achievement of training. Also, in order to know the regional nature of HGP, clubs and development organizations were categorized by prefecture (J-HGP2 (prefecture)). The ratio of the number of HGP enrolled persons was 30% or more and the HRV was 1.00 or more. In J-HGP1, C. Osaka (1.33) was the only club in the J-League. This suggests that the young players who have been nurtured are being sent to clubs in Japan and overseas, and that a cycle in which changes in the generations of the players and renewal of their metabolism is emerging. In J-HGP2, the enrollment ratio and participation time ratio values were higher than those of J-HGP1. This indicates that players in the J-League are being brought up in the training environment of high schools and universities. This remarkably represents a characteristic of being a rare league in many worlds. Furthermore, in J-HGP2 (prefecture), there are 9 prefectures where the enrollment ratio exceeded 30%. The HRV of 1.00 or higher were found in the two metropolitan areas of Tokyo (1.12) and Chiba (1.04). It turns out that Japanese HGP is affected by the characteristics of the environment which is made up of many high schools and universities.

Key words : J-League, Home-Grown-Player, HGP Ratio Value (HRV), Players Trained at a High School or University, Prefecture

[†] 原稿受付 2019年5月10日 原稿受諾 2019年10月1日

^{*} 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田1-6-1

^{**} 星槎大学大学院教育学研究科 〒231-0021 神奈川県横浜市中区日本大通11

^{*} Graduate School of Sport Sciences, Waseda University, 1-6-1, Nishi-Waseda, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan (169-8050)

^{**} Graduate School of Education, Seisa University, 11, Nihon o-dori, Naka-ku, Yokohama, Kanagawa, Japan (231-0021)

1. 緒 言

サッカーのプロリーグの自国の若年層選手の強化促進のため、ドイツは外国籍選手（以下、FP）規制を撤廃する¹⁾一方でドイツ国籍12名以上、うち6名以上が各クラブの地元出身選手であることを義務づけるHome-Grown Player（以下、HGP）の制度²⁾によって、国内の若年層選手の出場機会創出を図っている。同様にイングランドは国籍に関わらず21歳の誕生日までに3年間イングランド協会またはウェールズ協会の登録クラブに所属した選手をHGPと定義し、トップ登録25名中8名以上をHGP³⁾でなければならないとして制度化し、さらに2016年、Greg Dykeチェアマンは2019/2020シーズンまでの4年間でHGPを12名まで増加する可能性を発表⁴⁾するなど積極的である。しかしHGP在籍人数規定を導入したがHGPが全員控え選手であったケースや、HGP出場人数の規定を設け3人のHGPが先発出場したが、開始まもなく交代でベンチに下がる事例も報告されており⁵⁾、HGP制度の意味、本質が問われる事態となっている。つまりHGP制度には在籍人数や出場人数だけでなく出場時間も考慮しなければならないフェーズに入ってきている。

そんな中Dalziel M.らの研究では、ヨーロッパサッカー連盟（以下、UEFA）加盟55の国内競技連盟（以下、NF）のうち21NFのリーグ運営方針と各国の雇用等の法律を基に各リーグのFPおよびHGP制度をまとめ、国内選手の雇用保護や若年層選手の出場機会創出、育成のためのルールを配していることが報告されている⁶⁾。また、国の成績と若年層選手の出場機会の比率についてリサーチ会社The CIES Football Observatory⁷⁾は、UEFA加盟31NFの調査で22歳以下の選手の出場時間のUEFAランキングへの寄与率の相関関係を調査し、好成績を挙げるオランダの若年層選手の出場機会率が特に高く、ドイツ、フランス、クロアチア、スペインも同様に若年層選手の育成について何らかの秘訣が存在することを示している⁸⁾。

一方で、日本プロサッカーリーグ（以下、Jリーグ）は、100年構想を掲げ発足⁹⁾し、2018年に25年目を迎え、地域に根差したスポーツクラブを謳っている¹⁰⁾が、これまで若年層選手の育成目的としてHGPに関する規定はなく、先行研究において世界でも稀有な選手の平均年齢の高いリーグであることおよびプロになる直前の育成機関が高校（14.81%）、Jクラブユース（37.04%）、高校から大学経由（35.19%）、Jクラブユースから大学経由（12.96%）と報告されており¹¹⁾、50.0%が高校或いは高校から大学経由という育成機関で育ちJリーガーになっていることが明らかにされている。2015年、村井満チェアマンは「欧州においては基本的にはレギュレーションを無くしてHGP制度を導入し、自国の出場選手を確保する形となっています。枠を設けるといよりはホームグロウンという流れが欧州にある中で、今回Jリーグにおいても見直しを議論しました¹²⁾。」と若年層選手の育成制度の重要性について言及し、2019年シーズン開幕から独自のHGPルールとして、各クラブが選手育成にコミットし、アカデミーの現場を変えていくことを目的に「ホームグロウン制度」を2022年までの4年間の人数規制の段階を経て導入を実施し、一方で「外国籍選手枠」の変更も行い、規制緩和によりクラブの選択肢を広げることで高水準の競争を実現することを目的に実施するものとした¹³⁾。この制度の導入によって、2019年シーズン開幕時点でHGPが最多13名だったのはサンフレッチェ広島（以下、広島）、ガンバ大阪（以下、G大阪）、セレッソ大阪（以下、C大阪）、清水エスパルス（以下、清水）、ジュビロ磐田（以下、磐田）の5クラブだった。次いで12名が鹿島アントラーズ（以下、鹿島）とFC東京（以下、F東京）であり、この7クラブは全て国内大会のタイトルを取った実績がある。いずれのクラブも日本リーグ時代からの母体を持つ名門クラブであったり、大都市を所在地にしていたり、歴史的に高校世代の全国大会で優秀な成績を残してきた地域であったり、優秀な選手が集まる条件が整ってい

る。一方で、ホームグロウン制度導入のわずか1ヶ月後にJ1の松本山雅FC（以下、松本）が、ホームグロウン制度の規定である2名登録の義務に満たない1名のみの登録だったために、罰則として翌年2020年シーズンの登録メンバーを一人減らされることになった¹⁴⁾。この事実は、Jリーグにふさわしい「ホームグロウン制度」に再考、改良の余地のあることを示すものと考ええる。

これまで年齢や出場時間でJリーグと他国のプロリーグとを比較した研究¹¹⁾やユース、選手の経歴に関する研究¹⁵⁾はあるが、JリーグのHGP、つまり地元出身選手についての分析はほとんどない。Jリーグが下部組織の仕組みや育成の施策を議論し、新しいHGP制度導入の検討が進んでいるが、高校や大学といった日本独自の特徴的な選手育成環境を持つJリーグには、他国の事例そのままを用いることは難しい。そこで本研究では、Jリーグ版ホームグロウン制度構築の基礎的データとなるHGPの在籍人数と出場時間、および育成環境と育った地域を明らかにし、日本における若年層選手育成の観点からのHGP制度の在り方を検討することを目的とした。

2. 研究 方 法

2.1 研究対象

研究対象リーグは、日本のJリーグのJ1、J2およびJ3。研究対象期間は、2014シーズンの登録選手を対象とした。

2.2 対象データ

対象データは、日刊スポーツJリーグ選手名鑑¹⁶⁾から当該年の規程¹⁷⁾を基に、対象期間の選手の年齢、出場時間、育成機関を調査し、独自にデータベースを作成し分析に用いた。クラブ事情等でシーズン途中移籍を含む累積数とした。また加えて、FP以外の日本人をThe OthersとHGPと分類し、さらに育成機関のJクラブ、高校および大学の所在地を47都道府県で分類した。そしてJリーグホームページ公開

の試合記録¹⁸⁾から各選手の出場時間（分数）を算出した。

なお、本研究で用いたデータはすべてオープンデータである。

2.3 分析方法

本研究では、対象となるJリーグ選手のHGPの定義として、諸外国でも用いられているクラブ内育成の「15歳から21歳までに当該クラブに3年間所属した選手」（定義1）（以下、J-HGP1）という算出基準に加えて、日本の高校や大学という特徴的な選手育成の環境を考慮するため、クラブ外育成の「Jリーグチームの所在地の高校や大学を卒業した選手もHGPに含む」（定義2）（以下、J-HGP2）の2つの方法でHGPの算出を行った。そして、J-HGP1、J-HGP2とFPとそれ以外（以下、The Others）の在籍人数比率と出場時間比率をクラブ別に調査し、さらにHGPの在籍人数比率と出場時間比率の商を除算により育成の成果の指標である対比值（それぞれ以下、J-HGP1 Ratio値、J-HGP2 Ratio値）を算出した。分析にはフィッシャーの正確検定を用い、Jリーグのクラブ別のHGPの割合の有意差を検定した。

さらに、J-HGP1、J-HGP2の差および、高校や大学という特徴的な環境で育成されているJリーグの地域性の特徴を明らかにするために、FPとThe OthersとJ-HGP2を都道府県別に在籍人数比率と出場時間比率（以下、J-HGP2^{（都道府県別）}）を調査し、さらにHGPの在籍人数比率と出場時間比率の商を除算によりJ-HGP2^{（都道府県別）} Ratio値を算出した。分析にはフィッシャーの正確検定を用い、都道府県別のHGPの割合の有意差を検定した。なお、2014年時点でJクラブが存在しない11県（青森県、三重県、奈良県、和歌山県、滋賀県、福井県、島根県、山口県、高知県、宮崎県、鹿児島県）を除き36都道府県が分析対象である。

3. 結 果

3.1 FP, The Others, J-HGP1 の在籍人数比率と出場時間比率と, J-HGP1 Ratio 値

Jリーグ全51クラブのFPとThe OthersとJ-HGP1の割合およびJ-HGP1 Ratio値を表1に示した。J1, J2, J3 総合の在籍人数比率の平均はFP (11.20%), The Others (76.58%), J-HGP1 (12.22%)。出場時間比率の平均はFP (9.88%), The Others (81.47%), J-HGP1 (8.65%) であった。

J1 の在籍人数比率の平均はFP (15.17%), The Others (64.35%), J-HGP1 (20.48%)。出場時間比率の平均はFP (13.69%), The Others (71.75%), J-HGP1 (14.56%) であった。FP 在籍人数比率の最高値はC大阪 (23.33%), 最低値は浦和 (4.00%) であった。一方, FP 出場時間比率の最高値は神戸 (30.15%), 最低値は浦和 (0.72%) であった。J-HGP1在籍人数比率の最高値はG大阪 (46.67%), 最低値は仙台, 徳島, 甲府, 鳥栖の4クラブが在籍数0名で0%であった。J-HGP1出場時間比率の最高値はC大阪 (39.89%), 最低値はHGPが0名の4クラブに川崎Fを加えた5クラブであった。J-HGP1 Ratio値1.00以上は, C大阪 (1.33) で, J-HGP1の在籍人数比率 (30.00%) よりも出場時間比率 (39.89%) が高いJリーグ唯一のクラブであり, また, 川崎FがJ-HGP1在籍人数比率 (6.90%) で出場時間比率が0%であるJ1 唯一のクラブであった。

J2 の在籍人数比率の平均はFP (11.94%), The Others (76.83%), J-HGP1 (11.22%)。出場時間比率の平均はFP (10.52%), The Others (81.31%), J-HGP1 (8.17%) であった。FP 在籍人数比率の最高値は福岡 (18.52%), 最低値は北九州が在籍0名で0%であった。FP 出場時間比率の最高値は京都 (22.11%), 最低値は北九州 (0.00%) であった。J-HGP1在籍人数比率の最高値は東京V (54.29%), 最低値は北九州, 富山, 岐阜, 栃木, 水戸, 群馬, 讃岐, 長崎の8クラブは在籍0名で0%であ

た。J-HGP1出場時間比率の最高値は東京V (51.53%), 最低値はJ-HGP1を輩出していない8クラブであった。J-HGP1 Ratio値1.00以上は, 湘南 (1.85) で在籍人数比率 (8.82%), 出場時間比率 (16.26%) と, 千葉 (1.60) の在籍人数比率 (14.29%), 出場時間比率 (22.88%) で, J2では2クラブのみであった。

J3 の在籍人数比率の平均はFP (2.80%), The Others (96.88%), J-HGP1 (0.31%)。出場時間比率の平均はFP (1.92%), The Others (98.03%), J-HGP1 (0.05%) であった。FP 在籍人数比率の最高値は鳥取 (7.14%), 最低値はYS横浜, 盛岡, 福島, 長野の4クラブが在籍0名で0%であった。一方, FP 出場時間比率の最高値はSC相模原 (6.99%), 最低値は在籍0名の4クラブに金沢を加えた5クラブ。J-HGP1在籍人数比率の最高値は鳥取 (3.57%), 最低値は鳥取以外の10クラブは在籍0名で0%であった。J-HGP1出場時間比率の最高値は鳥取 (0.54%), 最低値はJ-HGP1が在籍0名の10クラブ。J-HGP1 Ratio値1.00以上のクラブはなかった。

3.2 FP, The Others, J-HGP2 の在籍人数比率と出場時間比率と, J-HGP2 Ratio 値

Jリーグ全51クラブのFPとThe OthersとJ-HGP2の割合およびJ-HGP2 Ratio値を表2に示した。なおFPは日本国籍ではなくJ-HGP2対象外なので前項3.1と同値である。J1, J2, J3 総合の在籍人数比率の平均はFP (11.20%), The Others (65.71%), J-HGP2 (23.10%)。出場時間比率の平均はFP (9.88%), The Others (70.47%), J-HGP2 (19.65%) であった。

J1 の在籍人数比率の平均はFP (15.17%), The Others (56.31%), J-HGP2 (28.52%)。HGP 出場時間比率の平均はFP (13.69%), The Others (63.23%), J-HGP2 (23.04%) であった。J-HGP2在籍人数比率の最高値はG大阪と柏 (53.33%), 最低値は甲府と鳥栖 (3.33%) であった。J-HGP2出場時間比率の最高値はF東

表1 FP, The Others, J-HGP1の在籍人数比率と出場点数比率とJ-HGP1 Ratio値

カテゴリー	クラブ数	Jリーグ優勝回数 (**近畿圏クラブ)	クラブ名 (*首都圏クラブ) (**近畿圏クラブ)	在籍人数比率			出場点数比率			J-HGP1 Ratio 値
				FP	The Others	J-HGP1	FP	The Others	J-HGP1	
J 1	1	2	** G 大阪	13.33%	40.00%	46.67%	13.12%	58.09%	28.79%	0.62
	2	1	* 浦和	4.00%	64.00%	32.00%	0.74%	85.41%	13.85%	0.43
	3	7	* 鹿島	13.33%	70.00%	16.67%	8.08%	82.27%	9.64%	0.58
	4	1	* 柏	20.00%	36.67%	43.33%	15.53%	48.91%	35.56%	0.82
	5		鳥栖	13.33%	86.67%	0.00%	18.21%	81.79%	0.00%	—
	6		* 川崎 F	10.34%	82.76%	6.90%	13.90%	86.10%	0.00%	0.00
	7	3	* 横浜 FM	10.00%	50.00%	40.00%	4.32%	66.43%	29.24%	0.73
	8	2	広島	13.79%	55.17%	31.03%	5.38%	75.27%	19.35%	0.62
	9		* F 東京	12.90%	58.06%	29.03%	6.40%	66.24%	27.37%	0.94
	10	1	名古屋	14.71%	67.65%	17.65%	12.17%	79.17%	8.66%	0.49
	11		** 神戸	16.67%	63.33%	20.00%	30.15%	56.94%	12.91%	0.65
	12		新潟	20.69%	62.07%	17.24%	14.48%	71.76%	13.76%	0.80
	13		甲府	16.67%	83.33%	0.00%	19.86%	80.14%	0.00%	—
	14		仙台	12.90%	87.10%	0.00%	6.44%	93.56%	0.00%	—
	15		清水	14.71%	58.82%	26.47%	21.32%	69.40%	9.28%	0.35
	16		* 大宮	18.75%	65.63%	15.63%	18.46%	67.80%	13.73%	0.88
	17		** C 大阪	23.33%	46.67%	30.00%	21.63%	38.48%	39.89%	1.33
	18		徳島	21.21%	78.79%	0.00%	16.30%	83.70%	0.00%	—
J1 平均				15.17%	64.35%	20.48%	13.69%	71.75%	14.56%	0.71
J 2	19		* 湘南	5.88%	85.29%	8.82%	7.94%	75.78%	16.28%	1.85
	20		松本	11.11%	86.11%	2.78%	5.78%	94.22%	0.00%	0.00
	21		* 千葉	14.29%	71.43%	14.29%	13.13%	63.98%	22.88%	1.60
	22	3	磐田	13.33%	66.67%	20.00%	15.75%	71.66%	12.59%	0.63
	23		北九州	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	—
	24		山形	10.34%	82.76%	6.90%	16.11%	78.74%	5.15%	0.75
	25		大分	19.35%	67.74%	12.90%	7.45%	81.75%	10.81%	0.84
	26		岡山	4.55%	84.09%	11.36%	0.44%	99.56%	0.00%	0.00
	27		** 京都	16.67%	56.67%	26.67%	22.11%	66.04%	11.85%	0.44
	28		札幌	12.12%	45.45%	42.42%	8.51%	62.15%	29.35%	0.69
	29		* 横浜 FC	17.24%	72.41%	10.34%	14.76%	82.59%	2.65%	0.26
	30		* 栃木	10.71%	89.29%	0.00%	13.90%	86.10%	0.00%	—
	31		熊本	12.50%	81.25%	6.25%	3.93%	94.74%	1.33%	0.21
	32		長崎	12.12%	87.88%	0.00%	5.31%	94.69%	0.00%	—
	33		* 水戸	3.45%	96.55%	0.00%	0.51%	99.49%	0.00%	—
	34		福岡	18.52%	66.67%	14.81%	16.46%	77.38%	6.16%	0.42
	35		岐阜	13.51%	86.49%	0.00%	15.86%	84.14%	0.00%	—
	36		* 群馬	17.86%	82.14%	0.00%	16.67%	83.33%	0.00%	—
	37		愛媛	15.38%	73.08%	11.54%	10.78%	80.19%	9.03%	0.78
	38	2	* 東京 V	11.43%	34.29%	54.29%	13.54%	34.93%	51.53%	0.95
	39		讃岐	12.90%	87.10%	0.00%	10.01%	89.99%	0.00%	—
	40		富山	13.51%	86.49%	0.00%	12.63%	87.37%	0.00%	—
J2 平均				11.94%	76.83%	11.22%	10.52%	81.31%	8.17%	0.73
J 3	41		金沢	3.23%	96.77%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	—
	42		長野	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	—
	43		* 町田	3.57%	96.43%	0.00%	3.65%	96.35%	0.00%	—
	44		鳥取	7.14%	89.29%	3.57%	5.42%	94.04%	0.54%	0.15
	45		盛岡	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	—
	46		* 相模原	6.90%	93.10%	0.00%	6.99%	93.01%	0.00%	—
	47		福島	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	—
	48		秋田	4.35%	95.65%	0.00%	3.94%	96.06%	0.00%	—
	49		琉球	3.70%	96.30%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	—
	50		藤枝	4.35%	95.65%	0.00%	1.38%	98.62%	0.00%	—
	51		* YS 横浜	0.00%	100.00%	0.00%	0.00%	100.00%	0.00%	—
J3 平均				2.80%	96.88%	0.31%	1.92%	98.03%	0.05%	0.16
J1 J2 J3 平均				11.20%	76.58%	12.22%	9.88%	81.47%	8.65%	0.71

表2 FP, HGP, The Others, J-HGP2の在籍人数比率と出場点数比率とJ-HGP2 Ratio値
およびJ-HGP2とJ-HGP1の差

カテゴリー	クラブ数	Jリーグ 優勝回数	クラブ名 (*首都圏クラブ) (**近畿圏クラブ)	在籍人数比率				出場点数比率			J-HGP2 Ratio値
				FP	The Others	J-HGP2	J-HGP2-J-HGP1	FP	The Others	J-HGP2	
J 1	1	2	** G 大阪	13.33%	33.33%	53.33%	6.67%	13.12%	45.54%	41.34%	0.78
	2	1	* 浦和	4.00%	60.00%	36.00%	4.00%	0.74%	85.41%	13.85%	0.38
	3	7	* 鹿島	13.33%	63.33%	23.33%	6.67%	8.08%	71.72%	20.19%	0.87
	4	1	* 柏	20.00%	26.67%	53.33%	10.00%	15.53%	39.49%	44.98%	0.84
	5		鳥 栖	13.33%	83.33%	3.33%	3.33%	18.21%	81.79%	0.00%	0.00
	6		* 川崎 F	10.34%	65.52%	24.14%	17.24%	13.90%	65.67%	20.44%	0.85
	7	3	* 横浜 F M	10.00%	43.33%	46.67%	6.67%	4.32%	53.75%	41.93%	0.90
	8	2	広 島	13.79%	51.72%	34.48%	3.45%	5.38%	74.47%	20.15%	0.58
	9		* F 東京	12.90%	41.94%	45.16%	16.13%	6.40%	39.33%	54.28%	1.20
	10	1	名古屋	14.71%	64.71%	20.59%	2.94%	12.17%	70.54%	17.29%	0.84
	11		** 神 戸	16.67%	56.67%	26.67%	6.67%	30.15%	44.69%	25.16%	0.94
	12		新潟	20.69%	62.07%	17.24%	0.00%	14.48%	79.71%	5.81%	0.34
	13		甲 府	16.67%	80.00%	3.33%	3.33%	19.86%	80.06%	0.09%	0.03
	14		仙 台	12.90%	77.42%	9.68%	9.68%	6.44%	92.91%	0.65%	0.07
	15		清 水	14.71%	41.18%	44.12%	17.65%	21.32%	39.92%	38.76%	0.88
	16		* 大宮	18.75%	50.00%	31.25%	15.63%	18.46%	57.90%	23.64%	0.76
	17		** C 大阪	23.33%	36.67%	40.00%	10.00%	21.63%	34.95%	43.42%	1.09
	18		徳 島	21.21%	75.76%	3.03%	3.03%	16.30%	80.89%	2.81%	0.93
J 1 平 均				15.17%	56.31%	28.52%	8.04%	13.69%	63.27%	23.04%	0.81
J 2	19		* 湘南	5.88%	70.59%	23.53%	14.71%	7.94%	58.77%	33.28%	1.41
	20		松 本	11.11%	80.56%	8.33%	5.56%	5.78%	92.24%	1.98%	0.24
	21		* 千葉	14.29%	60.71%	25.00%	10.71%	13.13%	48.61%	38.25%	1.53
	22	3	磐 田	13.33%	50.00%	36.67%	16.67%	15.75%	62.73%	21.52%	0.59
	23		北九州	0.00%	85.71%	14.29%	14.29%	0.00%	88.22%	11.78%	0.82
	24		山 形	10.34%	82.76%	6.90%	0.00%	16.11%	78.74%	5.15%	0.75
	25		大 分	19.35%	67.74%	12.90%	0.00%	7.45%	81.75%	10.81%	0.84
	26		岡 山	4.55%	81.82%	13.64%	2.27%	0.44%	97.27%	2.29%	0.17
	27		** 京都	16.67%	56.67%	26.67%	0.00%	22.11%	66.04%	11.85%	0.44
	28		札幌	12.12%	39.39%	48.48%	6.06%	8.51%	48.57%	42.92%	0.89
	29		* 横浜 FC	17.24%	62.07%	20.69%	10.34%	14.76%	72.72%	12.52%	0.61
	30		* 栃木	10.71%	85.71%	3.57%	3.57%	13.90%	81.71%	4.39%	1.23
	31		熊 本	12.50%	56.25%	31.25%	25.00%	3.93%	75.39%	20.68%	0.66
	32		長 崎	12.12%	84.85%	3.03%	3.03%	5.31%	94.21%	0.48%	0.16
	33		* 水戸	3.45%	68.97%	27.59%	27.59%	0.51%	76.93%	22.56%	0.82
	34		福 岡	18.52%	48.15%	33.33%	18.52%	16.46%	57.63%	25.91%	0.78
	35		岐 阜	13.51%	83.78%	2.70%	2.70%	15.86%	78.10%	6.04%	2.24
	36		* 群馬	17.86%	67.86%	14.29%	14.29%	16.67%	75.04%	8.29%	0.58
37		愛媛	15.38%	69.23%	15.38%	3.85%	10.78%	74.45%	14.77%	0.96	
38	2	* 東京 V	11.43%	22.86%	65.71%	11.43%	13.54%	22.66%	63.80%	0.97	
39		讃岐	12.90%	77.42%	9.68%	9.68%	10.01%	82.36%	7.64%	0.79	
40		富 山	13.51%	81.08%	5.41%	5.41%	12.63%	86.92%	0.45%	0.08	
J 2 平 均				11.94%	67.77%	20.29%	9.06%	10.52%	72.78%	16.70%	0.82
J 3	41		金 沢	3.23%	87.10%	9.68%	9.68%	0.00%	86.90%	13.10%	1.35
	42		長 野	0.00%	96.55%	3.45%	3.45%	0.00%	98.01%	1.99%	0.58
	43		* 町田	3.57%	60.71%	35.71%	35.71%	3.65%	48.26%	48.09%	1.35
	44		鳥 取	7.14%	78.57%	14.29%	10.71%	5.42%	85.92%	8.66%	0.61
	45		盛 岡	0.00%	85.19%	14.81%	14.81%	0.00%	85.37%	14.63%	0.99
	46		* 相模原	6.90%	65.52%	27.59%	27.59%	6.99%	66.63%	26.38%	0.96
	47		福 島	0.00%	82.76%	17.24%	17.24%	0.00%	83.77%	16.23%	0.94
	48		秋 田	4.35%	86.96%	8.70%	8.70%	3.94%	86.35%	9.71%	1.12
	49		琉 球	3.70%	92.59%	3.70%	3.70%	0.00%	98.82%	1.18%	0.32
	50		藤 枝	4.35%	56.52%	39.13%	39.13%	1.38%	57.08%	41.54%	1.06
	51		* YS 横浜	0.00%	48.48%	51.52%	51.52%	0.00%	42.70%	57.30%	1.11
J 3 平 均				2.80%	77.26%	19.94%	19.63%	1.92%	76.66%	21.42%	1.07
J 1 J 2 J 3 平 均				11.20%	65.71%	23.10%	10.88%	9.88%	70.47%	19.65%	0.85

京 (54.28%), 最低値は鳥栖 (0.00%) であった. J-HGP2 Ratio 値1.00以上は, C 大阪 (1.09) と F 東京 (1.20). 出場時間比率が 0 % だったのは川崎 F のみであった.

J2 の在籍人数比率の平均は FP (11.94%), The Others (67.77%), J-HGP2 (20.29%). J-HGP2 出場時間比率の平均は FP (10.52%), The Others (72.78%), J-HGP2 (16.70%) であった. J-HGP2 在籍人数比率の最高値は東京 V (65.71%), 最低値は岐阜 (2.70%) であった. J-HGP2 出場時間比率の最高値は東京 V (63.80%), 最低値は富山 (0.45%) であった. J-HGP2 Ratio 値1.00 以上であったのは, 湘南 (1.41), 千葉 (1.53), 栃木 (1.23), 岐阜 (2.24) の 4 クラブであった.

J3 の在籍人数比率の平均は FP (2.80%), The Others (77.26%), J-HGP2 (19.94%). 出場時間比率の平均は FP (1.92%), The Others (76.66%), J-HGP2 (21.42%) であった. J-HGP2 在籍人数比率の最高値は YS 横浜 (51.52%), 最低値は長野 (3.45%) であった. J-HGP2 出場時間比率の最高値は YS 横浜 (57.30%), 最低値は FC 琉球 (1.18%). J-HGP2 Ratio 値1.00 以上は, 金沢 (1.35), 町田 (1.35), 秋田 (1.12), 藤枝 (1.06), YS 横浜 (1.11) の 5 クラブであった.

3.3 FP, The Others, J-HGP2^(都道府県別) の在籍人数比率と出場時間比率と J-HGP2^(都道府県別) Ratio 値

FP と The Others と J-HGP2^(都道府県別) および J-HGP2^(都道府県別) Ratio 値を表 3 に示した. 在籍人数比率の平均は FP (11.27%), The Others (65.23%), J-HGP2^(都道府県別) (23.25%). 出場時間比率の平均は FP (9.91%), The Others, J-HGP2^(都道府県別) (19.70%) (70.39%) であった.

FP 在籍人数比率の最高値は徳島県 (21.21%), 最低値は岩手県, 福島県が在籍 0 名で 0 % であった. FP 出場時間比率の最高値は兵庫県 (31.15%), 最低値は岩手県, 福島県に石川県, 沖縄県を加えた 4 県で 0 % であった. J-HGP2^(都道府県別) 在籍人数比率の最高値は東京都 (50.00%), 北海道 (48.48%), 大阪府

(46.67%), 静岡県 (40.23%) の順で, 最低値は岐阜県 (2.70%) であった. J-HGP2^(都道府県別) 出場時間比率の最高値は東京都 (56.07%), 北海道 (42.92%), 千葉県 (41.26%) の順であり, 最低値は佐賀県で 0.00% であった. J-HGP2^(都道府県別) Ratio 値1.00 以上は, 秋田県 (1.12), 栃木県 (1.23), 東京都 (1.12), 千葉県 (1.04), 石川県 (1.35), 岐阜県 (2.24) の 6 都県であった.

4. 考 察

日本のプロサッカーリーグである J リーグは, 高校や大学といった特徴的な選手育成の環境を持っている. 日本の HGP の在籍人数と出場時間の差異を明らかにすることは, 今後の J リーグの HGP 制度の導入の際の算出方法や育成のあり方についての重要な資料となると考える.

本研究ではまず, J-HGP1 の在籍人数比率 30% 以上が 8 クラブ存在するが, C 大阪以外は全てのクラブは HGP Ratio 値1.00 以下であり, 自クラブで育成した選手の在籍人数は多いが出場時間が少なく, 効率よくトップチームで活躍させることが出来ていない現状が示された. 一方, J-HGP1 在籍人数比率 30% 以上且つ J-HGP1 Ratio 値1.00 以上の C 大阪は, J-HGP1 を多く輩出し出場機会も多く与えていることが明らかになった. 同じように 1993 年の J リーグ発足から参加していた歴史あるクラブで J クラブユース育成環境の整備が進み, 若年層選手育成に定評のある G 大阪, 浦和, 横浜 FM, 柏, 広島等の J-HGP1 在籍人数比率 30% 以上のクラブを含めて J リーグ全 51 クラブで唯一であったことは大きな発見と言える. これは, 香川真司, 柿谷曜一朗, 清武弘嗣, 山口螢, 扇原貴宏など自クラブで育成し, 日本代表レベルの優秀な選手を国内外に移籍させるという世代交代, 選手の新陳代謝の好循環がなされていると推察される. 逆に J-HGP1 在籍人数比率が低いクラブは, J リーグ後発クラブとして歴史が浅く J クラブユース組織の整備が遅れているため選手育成の施策がやむを得ず進んでいないことと推察され

表3 FP, HGP, The Others, J-HGP2 (都道府県別) の在籍人数比率と出場点数比率と J-HGP2 (都道府県別) Ratio 値

都道府県数	リーグ優勝回数	都道府県名 (*首都圏) (*近畿圏)	在籍人数比率			出場点数比率			J-HGP2 (都道府県別) Ratio 値
			FP	The Others	J-HGP2 (都道府県別)	FP	The Others	J-HGP2 (都道府県別)	
1		北海道	12.12%	39.39%	48.48%	8.51%	48.57%	42.92%	0.89
2		青森県				Jクラブ無し			
3		岩手県	0.00%	85.19%	14.81%	0.00%	85.37%	14.63%	0.99
4		秋田県	4.35%	86.96%	8.70%	3.94%	86.35%	9.71%	1.12
5		宮城県	12.90%	77.42%	9.68%	6.44%	92.91%	0.65%	0.07
6		山形県	10.34%	82.76%	6.90%	16.11%	78.74%	5.15%	0.75
7		福島県	0.00%	82.76%	17.24%	0.00%	83.77%	16.23%	0.94
8	7	*茨城県	7.94%	61.90%	23.81%	3.89%	74.61%	21.50%	0.90
9		*栃木県	10.71%	85.71%	3.57%	13.90%	81.71%	4.39%	1.23
10		*群馬県	17.86%	67.86%	14.29%	16.67%	75.04%	8.29%	0.58
11	2	*埼玉県	12.28%	54.39%	33.33%	9.60%	71.65%	18.74%	0.56
12	2	*東京都	9.57%	40.43%	50.00%	8.32%	35.61%	56.07%	1.12
13	1	*千葉県	17.24%	43.10%	39.66%	14.21%	44.54%	41.26%	1.04
14	3	*神奈川県	8.15%	59.24%	32.61%	8.26%	60.48%	31.26%	0.96
15		山梨県	16.67%	80.00%	3.33%	19.86%	80.06%	0.09%	0.03
16		新潟県	20.69%	62.07%	17.24%	14.48%	79.71%	5.81%	0.34
17		富山県	13.51%	81.08%	5.41%	12.63%	86.92%	0.45%	0.08
18		石川県	3.23%	87.10%	9.68%	0.00%	86.90%	13.10%	1.35
19		福井県				Jクラブ無し			
20		長野県	6.15%	87.69%	6.15%	3.24%	94.78%	1.98%	0.32
21	2	静岡県	11.49%	48.28%	40.23%	13.14%	53.91%	32.95%	0.82
22	1	愛知県	14.71%	64.71%	20.59%	12.17%	70.54%	17.29%	0.84
23		岐阜県	13.51%	83.78%	2.70%	15.86%	78.10%	6.04%	2.24
24		三重県				Jクラブ無し			
25		**滋賀県				Jクラブ無し			
26		**京都府	16.67%	56.67%	26.67%	22.11%	66.04%	11.85%	0.44
27	2	**大阪府	18.33%	35.00%	46.67%	17.37%	40.25%	42.38%	0.91
28		**奈良県				Jクラブ無し			
29		**和歌山県				Jクラブ無し			
30		**兵庫県	16.67%	56.67%	26.67%	30.15%	44.69%	25.16%	0.94
31		岡山県	4.55%	81.82%	13.64%	0.44%	97.27%	2.29%	0.17
32	2	広島県	13.79%	51.72%	34.48%	5.38%	74.47%	20.15%	0.58
33		鳥取県	7.14%	78.57%	14.29%	5.42%	85.92%	8.66%	0.61
34		島根県				Jクラブ無し			
35		山口県				Jクラブ無し			
36		香川県	12.90%	77.42%	9.68%	10.01%	82.36%	7.64%	0.79
37		徳島県	21.21%	75.76%	3.03%	16.30%	80.89%	2.81%	0.93
38		愛媛県	15.38%	69.23%	15.38%	10.78%	74.45%	14.77%	0.96
39		高知県				Jクラブ無し			
40		福岡県	9.09%	67.27%	23.64%	8.23%	72.93%	18.85%	0.80
41		大分県	19.35%	67.74%	12.90%	7.45%	81.75%	10.81%	0.84
42		佐賀県	13.33%	83.33%	3.33%	18.21%	81.79%	0.00%	0.00
43		長崎県	12.12%	84.85%	3.03%	5.31%	94.21%	0.48%	0.16
44		熊本県	12.50%	56.25%	31.25%	3.93%	75.39%	20.68%	0.66
45		宮崎県				Jクラブ無し			
46		鹿児島県				Jクラブ無し			
47		沖縄県	3.70%	92.59%	3.70%	0.00%	98.82%	1.18%	0.32
平均			11.27%	65.23%	23.25%	9.91%	70.39%	19.70%	0.85

る。

一方で、HGP在籍人数比率を比較するためJ-HGP1とJ-HGP2の差を調査した場合、10%以上の上げ幅があったのは23クラブあり、軒並み値が高くなったことは、先行研究において「Jリーグは世界でも稀有な平均年齢が高いリーグである¹¹⁾。」と指摘されているように、日本は特徴的な選手育成の環境であるクラブ外組織で育成された高卒、大卒選手が多く存在する世界でも希有なリーグである特徴を顕著に表した結果であると推察される。つまりJリーグのHGPは、Jクラブユースよりも高校や大学の影響を考慮の方が実態を表すと示唆される。

また、J-HGP2在籍人数比率30%以上は17クラブあった。そのうち10クラブの所在地は首都圏(1都6県)および近畿圏(2府4県)であった。これは、首都圏や近畿圏に多数の高校や大学が位置している影響と考えられる。そして、J-HGP2在籍人数比率30%以上かつJ-HGP2 Ratio値1.00以上のクラブは、J1はC大阪、F東京、J2はなし。J3は町田、藤枝、YS横浜の計5クラブであり、J-HGP1よりも4クラブ増加していた。一方、クラブ側として柏と日本体育大学柏高等学校¹⁹⁾や、湘南と産業能率大学²⁰⁾のように学校や大学等と連携し、選手の共有、指導者派遣の施策を導入しているクラブも出現しており、チームと学校との関係を考慮することが、今後の育成環境に関する研究では必要である。

また、J-HGP2^(都道府県別)在籍人数比率の基準を30%とした場合、北海道、埼玉県、東京都、千葉県、神奈川県、静岡県、大阪府、広島県、熊本県の9都道府県が該当した。特筆すべきは熊本県であり、J-HGP1は6.25%であったがJ-HGP2では31.25%と値が大きく上がっていることである。県内唯一のJクラブであるロアッソ熊本が地元高校や大学からの選手獲得に頼り、クラブとして歴史が浅くJクラブユース組織の整備が遅れているため選手育成の施策が進んでいない地域であることが伺える。また、他県へ通学等が困難である北海道が高い値を示し

たことは地理的な条件が影響していると考えられる。そして、J-HGP2^(都道府県別)在籍人数比率30%以上かつJ-HGP2^(都道府県別) Ratio値1.00以上は、東京都、千葉県の2都県だけであった。これは首都圏の高校および大学の数の多さが影響していると考えられ、高校や大学という特徴的な育成環境を持つ日本のHGPは、地域性にも大きく影響を受けることが分かった。それは、Jリーグは同一クラブのJクラブユースやクラブ近郊の高校や大学(第2種チーム)の登録選手であっても手続きを経て「第2種トップ可」登録すれば出場が可能となる²²⁾ので、実質的にクラブの保有選手の人数制限なくHGPが多く在籍可能であるためHGPの絶対数は多いと言える。逆に言えば、日本は大学が重要な育成機関であるとも言える。

イングランドは、1995年の「ボスマン判決」²³⁾以降、テレビ放映権による財政的成功から収益配分された各クラブが世界各国から無制限に優秀なFP選手を獲得した結果、FP在籍人数比率が欧州各国リーグの中で高水準となった一方、国内選手の育成施策が存在しなかったために自国の若年層選手の育成が上手くいかず、代表チームがNF単位の国際大会で結果が残せず低迷²⁴⁾した。そんな中、2016年に自国の若年層選手の強化のためにHGP施策が導入され、2019/2020シーズンまでにHGP施策を完了させると発表⁴⁾した。かつてドイツがEURO2000で惨敗を経て行ったリーグ改革と同じ道筋と言える。近年このドイツやイングランドのようにFPとHGPの保有や出場規制を強める或いは緩める、この両輪のバランスが国の各世代の代表選手の強化に繋がる重要施策であるという考え方が欧州では浸透している。

2016年にJリーグの村井満チェアマンは、FP施策として「Jリーグが世界水準に近づいていくためにも、レベルの高い外国籍選手を招聘することが極めて重要な打ち手となると認識している。日本人選手の出場枠を守るという考え方もありますが、厳しい競争のなかで出場枠を獲得していくということも、バランス論で

はあるが進めていきたい」²⁵⁾と国内外での競争フェーズに移行することを発言し、国内選手の更なる競争を促し、2019年から「ホームグロウン制度」を導入したが、制度導入後わずか1ヶ月で制度違反を下されたクラブも存在したことで、日本独自の文化である高校、大学出身の選手をどのようにカテゴライズし、今後どのような施策を取るのかは重要な研究課題となる。また、本研究は一部の期間を対象にしており、その推移についてはさらに研究が必要である。そして、HGPの保有や出場規制とFPの保有数と出場規制について、2022年までの4年間の段階でどのようにバランスを取っていくべきなのかにについて、本研究で明らかとなった2014年のベースラインをもとに更なる研究の発展が期待される。

参 考 文 献

- 1) 鈴木良平；世界一観客が集まるサッカーリーグブンデスリーガ事情通読本，東方出版，東京，p.185, 2011
- 2) Deutsche FußballLiga GmbH (2014) 『Bundesliga report 2014』, https://www.bundesliga.de/media/native/dokument/dt_DFL_BL_Wirtschaftssituation_2014_72dpi.pdf, ブンデスリーガ公式サイト 2019年4月22日.
- 3) BLEACHER REPORT ; “Premier League Homegrown Rules : Explaining EPL player Quotas” 2017/04/10, <http://bleacherreport.com/articles/2137974-premier-league-homegrown-rules-explaining-epl-player-quotas> 2019年4月22日.
- 4) ABOUT THE FA ; “FA CHAIRMAN’S UPDATE ON ENGLAND COMMISSION” 2015/03/23, <http://www.thefa.com/news/2015/mar/23/greg-dyke-england-commission-homegrown-players-work-permits-march-2015>, 2019年4月22日.
- 5) サッカーマガジンゾーンウェブ編集部；ベンゲル監督がホームグロウンルールに異論『二流選手を守ることになる』, <http://www.football-zone.net/archives/7985/2>, 2019年4月22日.
- 6) Prof. Murray Dalziel, et. al ; “Study on the Assessment of UEFA’s ‘Home Grown Player Rule’ ” 2013.
- 7) The CIES Football Observatory, <http://www.football-observatory.com/-About->, 2017年9月19日.
- 8) The CIES Football Observatory Monthly Report Issue no.13 2016 ; Figure 8 : Level of Employment of Players Under 22 Years of Age and Average UEFA Ranking (2009-2015) <http://www.football-observatory.com/IMG/sites/mr/mr13/en>, 2017年9月19日.
- 9) Jリーグホームページ About J.LEAGUE「DO! ALL SPORTS」<https://www.jleague.jp/aboutj/100year.html>, 2019年4月22日.
- 10) Jリーグホームページ About J.LEAGUE「ホームタウン」<https://www.jleague.jp/aboutj/hometown>, 2019年4月22日.
- 11) 能智大介・児玉ゆう子・平田竹男；J1リーグと欧州/南米のトップリーグにおける年代別出場機会に関する国際比較，スポーツ産業学研究 Vol.27, No.3, pp. 257-264, 2017.
- 12) TAGMA Jウォッチャー；村井チェアマン会見から2017シーズンのJリーグを紐解く，<https://www.targma.jp/jwatcher/2016/10/25/post31/>, 2019年4月22日.
- 13) Jリーグホームページ About J.LEAGUE「プレスリリース」2018/11/20 <https://www.jleague.jp/release/post-56861/>, 2019年4月22日.
- 14) 日刊スポーツ；松本は来季A選手1枠減，ホームグロウン制度未達成，<https://www.nikkansports.com/soccer/news/201904250000764.html>, 2019年4月25日.
- 15) 兼清文彦・平田竹男；Jリーグクラブにおけるユース出身選手に関する調査，スポーツ産業学研究，Vol.22, No.1, pp.91-96, 2012.
- 16) 2014年 日刊スポーツ Jリーグ選手名鑑；日刊スポーツ出版社.
- 17) J.LEAGUE HANDBOOK 2014（公益財団法人日本サッカーリーグ 規約・規定集）https://www.jleague.jp/img/aboutj/regulation/pdf_all.pdf, 2017年9月19日.
- 18) Jリーグホームページ；「成績・データ」<https://www.jleague.jp/stats/SFMS01.html>, 2017年9月19日.
- 19) 柏レイソルホームページ；「柏レイソルU-18

- 及び日体大柏高2018年新加入選手合同セレクション」<http://blog.reysol.co.jp/league/2017/015637.html>, 2017年9月19日.
- 20) 産業能率大学ホームページ湘南ベルマーレ応援サイト:「湘南ベルマーレとのパートナーシップ」<http://www.sanno.ac.jp/bellmare/teikei.html>, 2017年9月19日.
- 21) Jリーグホームページ About JLEAGUE「J1, J2, J3の外国籍選手枠について」<https://www.jleague.jp/aboutj/player/>, 2018年1月14日.
- 22) 日本サッカー協会「プロサッカー選手の契約, 登録及び移籍に関する規則」<http://www.jfa.jp/documents/pdf/basic/10.pdf>, 2017年9月19日.
- 23) 川井圭司; ボスマン判決とその波紋「プロスポーツ選手の法的地位」, 成文堂; pp.324-363, 2003.
- 24) The Guardian; 2014/10/27「Premier League Club shun homegrown players in blow to FA's Greg Dyke」<https://www.theguardian.com/football/2014/oct/27/premier-league-clubs-shun-homegrown-players-in-blow-to-fas-greg-dyke>, 2017年9月19日.
- 25) 藤木直人; FOOTBALL CHANNEL 2016, <https://www.footballchannel.jp/2016/10/14/post179923>, 2017年9月19日.